

# 波瀾万丈

## 教育に師弟同行を貫き 空手道に人生をかけた 不断の努力の長い道のり

鹿児島県の東洋大学・卒業生の人生の軌跡をたどるシリーズ企画「波瀾万丈」が復活しました。第6回目は3年ぶりの復活に相応しい校友、昭和41年経済学部卒の青木壽男会員です。



青木さんは高校時代までは柔道大会で優勝するなど、柔道に深く傾倒し目覚ましい活躍をしておりましたが、東洋大学進学後、空手道に転身しています。東洋大学には繋がり深い糸東会の師範、岩田万蔵氏の元、空手道の魅力に深く入り込みました。大学卒業後は鹿児島に戻り、教職に就きながら、創設期だった鹿児島県空手道連盟に長年関わり、6代目会長になっております。また自身でも隼人糸東会を運営され、空手道を通して青少年育成に尽力し、それまでの貢献が認められ「スポーツ指導者等表彰」を受けています。

秋の深まる11月21日、隼人町の青木さんのご自宅を訪問してきました。



クローズアップ  
青木壽男 会員

隼人糸東会での青木校友  
写真提供／広報霧島

大島郡知名町出身。  
昭和41年 東洋大学経済学部卒業。  
鹿児島県糸東会会長。  
ラジオ体操や5kgの鉄アレイなどで身体を鍛える。教員を14年勤めた後、公益財団法人日本習字教育財団鹿児島事務所長を勤める。  
全日本空手連盟公認7段。柔道3段。

### 祖父に躰けられた幼少期

**松下** 先輩の幼少期の頃をお聞かせください。

**青木** 私は昭和18年に沖永良部島の知名に生まれました。生まれる8ヶ月前に父が亡くなりましたので母親に育てられました。兄弟は姉と私の二人でした。そういう状況でしたので母方の祖父からいろいろと教わりました。祖父は礼儀に厳しい人で人間として「礼」の大切さを叩き込まれました。また父が居なかつたものですから「自分が親父になるんだ」という気持ちで過ごしておりました。

### 英語に親しむ

**青木** 幼少期の頃、私は叔父に可愛がられておりました。当時は島に米軍基地がありました。叔父は外国関係の仕事していたのでアメリカ人と交流があり、私も彼らに可愛がられチェイニングとか貰ったりしてました。幼心に英語が話せたらガムを貰えるんだと思ひ俄然英語に興味を持ちました。中学では学科の英語が得意になり、高校時代になると、米軍基地に行きアメリカ人に来てもらい英会話クラブとか作って勉強していました。

**松下** 英語とは初耳です。

沖永良部島は文化レベルの高い人材が多いという話をよく耳にしますが、そういう背景があるのでしょうか。

### 柔道との出会い

**松下** 松下／先輩は空手の前に柔道をやっておられたようですね。

**青木** 沖永良部中学1年の頃、柔道六段の先生がおりまして「これは是非習いたい！」と思ひ、道場に通うようになりました。毎日の練習で力をつけ沖永良部三道大会(柔道・剣道)。

高校時代の青木校友(昭和36年頃)



弓道)にも出場して2年、3年の時は優勝しました。

沖永良部高校に進んでも柔道はメインで続けましたが、相撲もするようになりました。高校三年の時、これまで先輩がなし得なかった全大島郡柔道大会(沖永良部与論・徳之島・古仁屋喜界)で個人優勝も果たしました。

## 東洋大学進学(空手部へ転身)

**松下** 東洋大学を選ばれた理由は何?

**青木** 東洋大学はスポーツが盛んで特に柔道が強いと有名だったので志望しました。就職に有利だと思い経済学部を受験し合格しました。柔道は高校時代に優勝して自信もあり、柔道部に入るべく見学に行くと、びつくり仰天、全員体格が全然違うんです。身長169cm、体重70kgの私に比べ、体重100〜140kgクラスの大きな人ばかりでした。当時は体重別でなかったですし、先輩達の身体を触ってみて「これは絶対敵わないなあ」と柔道を諦めました。途方に暮れました。

**松下** 空手へ転身した経緯をお聞かせください。

**青木** 当時は学生寮に住んでましたが、学費生活費を母一人に頼る訳にはいかなかったので、昼間は学校に行き、授業が終わったら新聞配達のアルバイトをしておりました。夕方練習出来る部活がないか?探していたら大学の二部に空手道部がありました。私は中学の時に少しだけ空手道も習っており興味を持ちました。そんな時に鹿児島出身の西柳操先輩と出会いがあり、二部空手道部師範の岩田万蔵先生(※1)を紹介していただき、入部しました。



入部後は当時の主将根岸雄先輩に指導を仰ぎました。それが僕の空手人生の始まりであり糸東会(※2)との出会いでした。日々練習に明け暮れるなか「組手」「形」「君子の拳(※3)」などを習い、次第に空手道にのめり込んでいきました。

**松下** ところで勉学の方は如何だったのでしょうか?(笑)

**青木** 経済学部でありながら英文科に潜り込んで英語の講義を受けてました。単位には無関係でしたが、あれは本当に勉強になりましたね。当時は若かったので外人を見つけ次第、英語で話かけていました。彼らと飲みに行き奢られたり奢ったりでしたね。

**松下** 英語の講義に潜り込むとは何と大胆!古き良き時代の話ですね!

## 就職になって結婚

**松下** 就職の道に進まれた経緯をお聞かせください。

**青木** 就職に進むにあたり大学院でもっと勉強しようか?と思っていた時の話です。鹿児島で条件の良い教員募集がありまして受験、採用になりました。昭和41年、国分市内(霧島市内)にあった九州電子工業高校※4で就職に就き社会科、英語担当になりました。



た。教員になってからの話をお聞かせください。

**青木** 生徒には学問は勿論、人間として基本的な礼儀やマナーをしっかり身に付けて欲しいとの思いから厳しく指導しました。他のどの先生よりも厳しいと生徒の反発も多く受けました。

私は当時20代の空手の好きな熱血教師、生徒は思春期真只中の弟や妹のような年齢の子達なんです。生徒達はいろんな環境で育ち、それぞれ価値観が違います。そこで真正面から向き合っていくいろいろなドラマが生まれお互いの成長があった訳です。いろいろと悩みもありましたが、上から押し付けるのではなく、共に歩む中で信頼関係が生まれる。常に師弟同行を崩しませんでした。

**松下** なるほどですね。さて、そろそろ奥様との出会いなどお聞かせください。恋愛だったのですか?それともお見合い?詳しくお願いします。西元君、「こはしっかり記録頼みます」。

**青木** いや、あれは恋愛だったのかなあ?見合いだったのか?う〜ん?

当時、妻は教職にあり一昨下、小学校時代の恩師の娘で面識がありました。20代も終わり、そろそろ結婚したいと思いついて、娘さんと結婚させてください」とお願いしました。

子供の頃は厳しかった恩師でしたが彼女との結婚を快諾され本当に有難いことでした。

昭和49年に結婚し子供3人を授かりました。

**松下** 先輩は土・日は必ず空手に出ていたというイメージなのですが、奥様とは如何だったのでしょうか?

**青木** 今考えると妻には本当に苦労をかけた。共稼ぎで、彼女も教職を続けながら子供3人の面倒も見ていました。妻が転勤で遠方の学校勤務になると、私より朝は早く出掛け、帰りも遅くなるのです。それなのに私は土日になると空手の集まりに出ていたので家のことは全て妻に任せっきりでした。妻に「これ以上空手を続けるなら離婚します」と強く言われて自粛していた時期もありました。

今、妻を手伝って家事をしたり「料理教室」に通って料理を作れるようになります。そこで妻の苦労が見えてきたのです。自分は無謀だったなあと思つて反省しています。

## 校友へメッセージ

**松下** 最後に校友会へのメッセージをお願いします。

**青木** 東洋大学は素晴らしい!でも卒業した後、人は一人では生きていけません。だから、校友会で大学で学んだ魂を語り合える仲間がいるのは、大変な幸せだし元気が出ます。支部長以下団結して、もっともって会員が増えて、笑いの絶えない校友会であつて欲しいと思います。

**松下** ありがとうございます。

## 鹿児島県空手道連盟

**松下** さて、教職についてからの空手の活動などお聞かせください。

**青木** 昭和41年に教職に就いてから早速空手道部を作ろうと職員会議で提案しましたが、当時、空手は喧嘩と結び付けられた時代だったので反対され、仕方なく柔道部を設立、顧問となりました。学生寮で早朝と夜間に一人での練習に始まり、次第に生徒が増えていきました。

一方、私は大学時代の岩田師範から「鹿児島には東勝美君がいる。彼と糸東会の普及に努めなさい」と訓示を頂いておりましたので、東勝美先生を訪ねていき、結成されたばかりの各派連合鹿児島県空手道連盟(後の鹿児島県空手道連盟※5)に深く関わろうなりました。多忙だった東先生の代理で鹿児島県空手道連盟の運営を手伝うようになり、同連盟の結成・発展に多大な貢献のあった米澤次男先生(※6)や諸先輩方と出会いがありました。昭和42年には同連盟主催で鹿児島中央警察署の武道館で第一回大会があり、以後、この大会は毎年開催され、現在も続いています。

昭和43年に国分市内(霧島市内)に九州学院大学(※7)が設立されたので、空手道部を作り、東勝美先生を師範に迎え、私は監督としてスタートしました。空手道部は部員が全国大会で優勝するなどめざまき上達県大会や大学交流大会で注目され始めました。その内に教員が教員になったので彼に高校の空手部を作らせました。(※8)県空手道連盟には創設時から深く

携わつてきましたので、平成27年に功績を認められ、日本体育協会公認の「スポーツ指導者等表彰」をいただきました。今までずっと私の活動を支えてくれた先輩、仲間、後輩、空手の子供達、家族のおかげです。感謝しています。

## 単人糸東会

**松下** 単人糸東会について設立趣旨や活動内容などお聞かせください。

**青木** 私の中には学校の恩師や空手の先生から教わったことが私の精神として大きく根付いています。

高校教員になってから子供達に接している内に、子供達に「熱意をもって勉強をする」「人に迷惑をかけたら謝る」というルールやマナーを守る気持ちが時代を追う毎にどんどん希薄になってきていると感じました。これは高校生になってから指導しても始まらないなあと思うようになりました。

どうしたものか?と考えていく内に、もっと小さな子供の時から空手道を通して肌と肌を付き合わせながら教えていく…命令とかではなく、良いところは褒めながら伸ばしていく、子供たちの成長のための空手クラブ構想が芽生えました。それで昭和56年、私が38歳の時、単人町空手道スポーツ少年団を結成しました。

これが今のスポーツ少年団「単人糸東会」です。現在、単人糸東会には小学生・大人まで22人おり単人武道場(週2回)の練習に参加しています。

練習ではまず大きな声で正しく礼をする事に始まり、基本の受け方・立ち方等に重点をおき、両親への感謝、弱い者をいじめない、目標を持ち努力を継続することなどを練習を通して



写真アルバムの至るところに英文が書いてある。

## 注釈

- (※1) 岩田万蔵/東洋大学OB・昭和26年より東洋大学空手部師範・昭和55年糸東会会長就任・平成5年心不全により逝去。享年69歳。
- (※2) 糸東会/摩文仁賢和によって昭和9年に開かれた空手道の流派。「守・破・離」(基本を忠実に・それを応用し・そこから独立する)という言葉に代表される様に、形という基本を守りながら、それを応用し、組手と結び付けていくことによって作り上げられた分解組手などに、その奥義までも修めることが出来るように体系づけられている。また、精神教育に重点を置いた摩文仁賢和は「君子の拳」を標榜し、円満な人格の形成・向上を目指した指導を行った。昭和39年「全日本空手道連盟糸東会」が発足。日本はもとより世界へと広がり続けている。
- (※3) 君子の拳/「拳足はみだりに使うな。手足を喧嘩に使ってはいけない。」という意味。空手道全般に通じる根本精神と言っても過言ではない。
- (※4) 学校法人坂元学園・九州電子工業高等学校(昭和38年創立)昭和61年に

- 学校法人が変わり、学校法人都築教育学園・鹿児島第一高等学校に改称。
- (※5) 鹿児島県空手道連盟/昭和39年発足。鹿児島大学空手道部・米澤次男氏(小林流)の声かけにより村井賢士(和道流)、東勝美(糸東流)、崎向政治(小林流)、田村隆至(招霊流)の各師範が集まり各派連合鹿児島県空手道連盟として発足した。各派の垣根を越え県内の空手道部の発展に寄与する趣旨で発足した。毎年大会等を開き、現在にいたる
- (※6) 米澤次男/鹿児島大学空手道部初代師範(昭和25年~)。小林流。鹿児島県空手道連盟・第二代会長(昭和54年~平成10年)。鹿児島県空手道連盟の発足と発展に貢献した。
- (※7) 学校法人坂元学園・九州学院大学/昭和61年に学校法人が変わり、学校法人都築教育学園・第一工業大学に改称。
- (※8) 平成27年度 県高等学校空手道競技大会・団体組手・連覇達成。